

## ⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭59-23203

⑤ Int.Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和59年(1984) 7月11日

G 11 B 3/42  
B 32 B 33/008221-5D  
6122-4F

(全2頁)

1

2

## ⑮ ヘッドシエル

⑰ 実 願 昭53-129363

⑱ 出 願 昭53(1978) 9月19日

⑲ 公 開 昭55-49315

⑳ 昭55(1980) 3月31日

㉑ 考 案 者 川口 昭博

寝屋川市日新町2番1号 オンキ  
ヨー株式会社内

㉒ 出 願 人 オンキヨー株式会社

寝屋川市日新町2番1号

㉓ 代 理 人 弁理士 佐当 弥太郎

## ㉔ 実用新案登録請求の範囲

両面又は片面にポリウレタン系樹脂等の損失係  
数大なる塗膜層1を形成し、その上面に不飽和ポ  
リエステル系樹脂等のヤング率の高い塗膜層2の  
被膜を積層して形成した事の特徴とするヘッドシ  
エル。

## 考案の詳細な説明

本考案は振動を抑制したピックアップのヘッド  
シエルに関するものである。

従来、ヘッドシエルの材質として、アルミニウ  
ム等の軽金属やプラスチック等の合成樹脂材料  
が使われて来たが、ヘッドシエル本体の振動によ  
つて生ずる鳴きは音質を悪くするものである。従  
つて無共振ヘッドシエルが望まれるものであるが  
実際には不可能に近いものである。その為にヘッ  
ドシエル本体の裏面や表面にゴムシートを貼着し  
たり、合成樹脂を塗布して振動を抑制していた。  
しかしながらこれでは不十分であり、制振材とし  
て損失係数が0.1近くになるものはなかつた。従  
つて現在までヘッドシエル本体の鳴きを十分に抑  
えられないと云う欠点があつた。

本考案は上記の欠点を取除く為に考案されたも  
ので、図面に示す実施例について説明すれば、第  
1図、第2図に示すごとく、ヘッドシエル3の裏

面にポリウレタン系樹脂等の損失係数が大きい塗  
料を塗布して塗膜層1を形成し、乾燥させた後、  
その上面に不飽和ポリエステル系樹脂等のヤング  
率の高い塗料を塗布して硬化させ、塗膜層2の被  
膜を積層して形成せるヘッドシエルである。本考  
案の制振材と従来のゴムシート制振材の損失係数  
の測定結果を下記の表に示すものである。アルミ  
ニウム板のテストピースに各制振材を塗布し、温  
度20°C、湿度62%で振動減衰率即ち損失係数を  
測定したものである。

80 Hzに於て 500 Hzに於て

|         |        |        |
|---------|--------|--------|
| ゴムシート   | 0.0049 | 0.0049 |
| エポキシ系樹脂 | 0.012  | 0.010  |
| 本考案積層被膜 | 0.064  | 0.09   |

上記の表に見られるように本考案積層被膜を形  
成すると損失係数が0.1近くになり、制振材とし  
ての効果が他の制振材と比較して格別に顕著であ  
る。

第3図はゴムシートを制振材に使用した場合、

第4図はエポキシ系樹脂を制振材に使用した場  
合、第5図は本考案積層被膜を制振材に使用した  
場合の各振動特性図で、第5図では第3図、第4  
図に比較して周波数特性に於て鋭度の小さいもの  
となつている。

実施例ではヘッドシエル3の裏面に積層被膜を  
塗布しているが、表面又は両面に塗布してもよい。

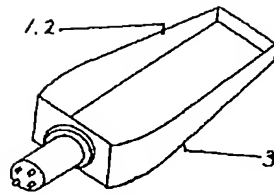
本考案は以上に述べたように、ピックアップの  
ヘッドシエル裏面に損失係数大なる塗膜層1と、  
その上面にヤング率の高い塗膜層2の積層被膜を  
形成すると云う巧妙な構造で振動を抑制するもの  
で、実用効果大なる考案である。

## 図面の簡単な説明

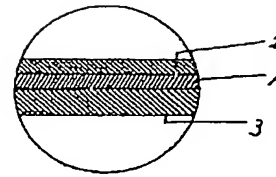
第1図は本考案のヘッドシエル外觀図、第2図  
は要部断面図、第3図、第4図、第5図は振動特  
性図。

1、2は塗膜層、3はヘッドシエル。

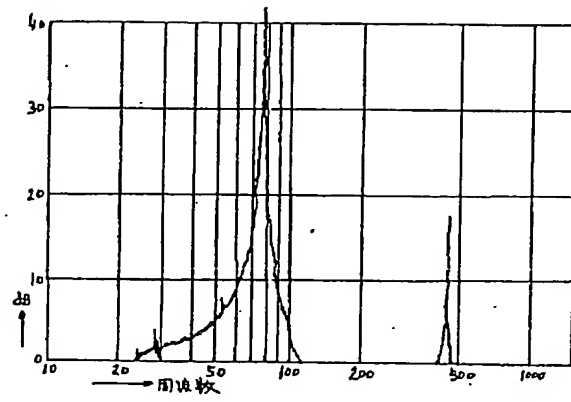
第1図



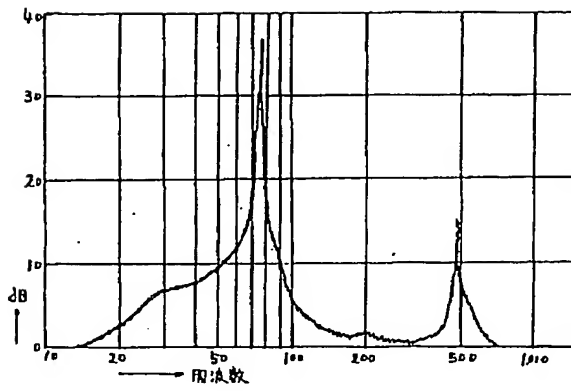
第2図



第3図



第4図



第5図

